

第5節 環境市民の育成

良好な環境を将来へ引き継いでいくためには、環境問題の本質を理解し、日常生活において積極的に環境に配慮した行動ができる人材の育成が重要です。

そのため、地域の一人一人が積極的に自然とふれあい、学ぶことができる機会の創出と環境に配慮した行動を実践することができる「環境市民の育成」を目指します。

1 環境教育

今日の環境問題を解決するためには、私たち一人一人が環境への関心と理解を深め、具体的に行動する必要があります。

本市では、市民が楽しみながら環境保全活動・学習を行うことができる事業を考え、多くの市民が身近な環境を大切にする心を育み行動することで、自然と環境を配慮する生活へとつながるような社会の実現を目指しています。

(1) 環境フェア

本市では、平成27年度に環境保全の普及啓発事業の一環として、市民・事業所・環境保全活動団体・行政が協力し合い、環境問題に関する知識の普及及び啓発、環境保全活動への自主的な参加の推進を図るため「環境フェア2015～“環境”と調和するエコライフへ～」を「第24回かなんまつり」と同時開催しました。

遊楽館を会場に、実体顕微鏡と光学顕微鏡を使ったマイクロ世界の体験や、電気の発電から使用までを体験できる発電実験などを行いました。当日は子どもからお年寄りの方まで約600人の方々に来場していただきました。

《図4-28 環境フェア2015の様子》



写真：石巻市

(2) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生までなら誰でも参加でき、環境保全活動や環境学習を自主的に体験することができるクラブです。子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することにより、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。

平成27年度は、全国で2,127クラブ、12万2,129人が登録し活動しました。

石巻市内では8クラブが登録しており、メンバーは275人、サポーター数は33人となっております。

《表4-15 石巻市こどもエコクラブ参加団体（平成27年度）》

	登録団体	メンバー数	サポーター数
1	キノサンエコクラブ	1	1
2	なかよしエコクラブ	56	5
3	大街道小4年エコクラブ	41	3
4	おひさま 山下地区児童クラブ	58	5
5	鹿又放課後児童クラブ	39	4
6	石巻市桃生地区第一放課後児童クラブ	24	3
7	石巻市桃生地区第二放課後児童クラブ	47	4
8	イオン石巻チアーズクラブ	9	8
合計	8クラブ	275	33

資料：石巻市

(3) 環境保全リーダー育成講座

本市では、環境について関心のある市民に専門知識や技術の習得に役立つ講義を受講してもらい、修了後は学校、町内会、職場、市民グループなどの場で環境保全活動を先導してもらうことを目的に、「環境保全リーダー育成講座」を平成27年度まで実施してきました。これまでに、環境保全リーダーとして225名が登録し、環境保全活動の中心として活躍しております。

平成28年度からは、日常生活において積極的に環境に配慮した行動を実践することができる「環境市民」の育成をはかる「環境市民育成講座」を実施し、より多くの市民の方々が環境教育に参加できるように取り組んでいきます。

《図4-29 フォローアップ講座の様子》



写真：石巻市

また、石巻市環境保全リーダー育成講座修了生の期生間を超えた相互の情報交換や、さらなる環境保全リーダーのネットワークづくりを目的とした「フォローアップ講座」を、平成28年2月に開催しました。講座の内容は、「ごみ処理状況とごみ減量の大切さ」についての講演と、河川に関する規制の緩和を通じて、地元の方々がより活発でにぎわいのある水辺利用を推進し、まちづくり、美しい景観づくりを官民協働で考え、にぎわいのある水辺空間を目指す「ミズベリング石巻」に関する活動報告でした。

(4) 環境教育事業

本事業では、「水生生物による水質調査」や「酸性雨モニタリング調査」などを実施し、環境保全意識の啓発を図っています。

水生生物による水質調査では、河川に生息するサワガニ、カワゲラ類等の水生生物の生息状況が、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。また、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高めるとともに、水質保全や浄化への意識が高まることを目的とし、実施しています。

石巻市では、平成27年に内の原川と日向川に生息する水生生物について調査を実施し、15人の方々に参加していただきました。

酸性雨モニタリング調査では、中学生を対象に、雨のpH値（酸性、アルカリ性を示す値）を測定し、大気汚染の現状を把握することで身近な問題として大気汚染、環境保全について考えるとともに地球環境問題についての意識を高めることを目的としています。

平成27年実施においては、5校の中学校で27人の生徒の方が参加しました。

また、平成22年度から石巻工業高等学校では「光触媒による水質浄化実験」に取り組んでおり、環境意識の高い人材を育成するとともに、環境問題に対する市民啓発を目的とした事業も実施しています。

《表4-16 平成27年酸性雨モニタリング調査に参加した中学校》

	学校名	人数
1	石巻市立石巻中学校	5
2	石巻市立門脇中学校	5
3	石巻市立湊中学校	4
4	石巻市立蛇田中学校	8
5	石巻市立飯野川中学校	5
合計	5校	27

資料：石巻市

2 環境保全活動

今日の環境問題である都市・生活型公害や地球環境問題などの発生要因の多くは、私たちの日常の生活や事業活動と深く関わっています。多岐にわたる環境問題に対応し、良好な環境を将来の世代へ引き継いでいくためには、市民、事業者、市など全ての主体が、日頃から環境に配慮した暮らしや事業活動を行い、環境負荷を継続的に低減させていくことが求められています。

大きな規模での地球環境の保全と同じように、身近な「私たちの住むまち」に対する生活環境の保全は大切です。石巻市の環境美化運動は、町内会や行政区、小中学校などの各種団体により構成される石巻市環境美化推進協議会が主体となって行っています。協議会では、ごみの散乱を防止し、清潔なまちづくりを推進するクリーン運動、快適で緑豊かな美しいまちづくりを目指すグリーン運動を二本の柱とし、活動に取り組んでいます。

(1) クリーン運動

道などに散乱するごみ、ポイ捨てされたごみは、まちの美観を損ねるばかりでなく市のイメージダウンにもつながりかねません。ごみのポイ捨て禁止やごみの持ち帰り運動を進めることが、市民一人一人の環境に対するマナーやモラルの向上につながります。

環境美化推進協議会では、2年ごとに市内3地区を環境美化モデル地区に指定し、「ポイ捨て禁止キャンペーン」として、ポイ捨て禁止を呼び掛ける運動などを実施しています。

また、次代を担う市内小中学生の児童・生徒に、環境省などが主催する3R促進ポスターコンクールへの参加を呼び掛けたり、まちや川をきれいにする作文・ポスターコンクールを実施するなど、環境美化意識の高揚を図るための活動をしています。

《図4-30 まち川作文・ポスターコンクール 石巻市長賞入選作品》



写真：石巻市

さらに、地域の環境は地域で守ることを目標に、地域の様々な団体が地域の清掃活動を実施しています。

平成27年度は212団体（延べ822団体）が実施し、延べ4万5千人を超える方が参加しました。実施団体は地域のコミュニティ団体のほかにも、同じ場所を利用する仲間の団体として、釣り愛好者団体などが海岸を清掃する活動なども見られるようになりました。

本市ではそれらの活動に対し、ごみ袋の配布などを行っています。

（2）グリーン運動

地域の環境美化運動の一環である「花いっぱい運動」では、町内会等の地域団体に花の苗木を配布し植栽することで、花があふれる潤いのあるまちづくりを推進しています。

平成27年度は121団体に、サルビア、マリーゴールド、ペコニアの3種類の苗木45,662本の配布を行いました。

花の苗木は6月ごろ各地区に配布され、地域の皆さんによって、沿道や各施設などの花壇に植栽され、環境美化の推進及び環境美化意識の高揚が図られています。

《図4-31 平成27年「花いっぱい運動」の様子》



写真：石巻市